

医療情報学科の授業評価結果に対する考察（平成 26 年度）

副学長・医療保健学部医療情報学科長
大久保 憲

1. 授業評価アンケート結果の感想

- 必修科目で基礎的な知識や技術を習得するために筆記試験と追試を課するような科目においては学生の満足度が低く、統合や興味を持たせ筆記試験を課さない選択科目で学生の満足度が高いことから、授業の重要性や位置づけが学生に正しく理解されておらず、単位取得のためのお得感に影響されていると思われます。
- 一方で、黒板の字が見づらいなどの指摘はその通りであり、設備的にも書き方においても改善すべきだと思いました。
- 学生に対して確実に知識を身につけて、就職活動や将来のためになることが目的ですので、今後継続して努力していきたいと思いました。
- 学生自身による授業態度や出席率、積極性について、概ね点数は悪くないと考えますが、一部の学生の自己評価が悪かったことから、このような学生に対しては授業内容に興味を持たせるなど、モチベーションを向上させる工夫が必要です。
- データベース演習、医用画像処理ともにパワーポイントによる説明や配布資料のわかりやすさについての評価が高く、感想にも同様のコメントが見られました。わかりやすい授業を行うことは最も力を入れた部分なので、それが結果として現れたことは良かったと思います。
- 選択科目の方が、興味のある学生が履修すること、また履修者が少人数であり、かつやる気のある学生なので評価は高くなります。
- 総合評価において、全科目平均を超えた担当科目は無かったが、他の評価項目においては、全科目平均と同等もしくはそれ以上の項目もあったことから、概ね良好であると考えます。
- 課題量を前年度より増加させたことで、授業をすべて消化できない学生の割合が増えたためか、内容やそのレベルについての評価が例年より下がりました。
- 授業の関心度に対する評価は高い評価であっても、授業内容をよく理解できたかどうかの理解度については不十分な場合が見られましたので今後、説明や内容に工夫の余地があります。
- 2 クラス構成で同じ内容の授業をおこなう事があった場合、クラスによって評価が分かれることがあります。総合的な満足度の偏りについて、その理由を考えなくてははいけません。
- 複数の科目の授業結果を比較すると、少人数の授業では評価が高く、多人数の授業では評価が低い傾向が見られました。教え方を含めて具体的な対策を科目の特性に応じて立てていきたいと思っています。
- どの科目のどの評価項目もおおよそ 4 前後であったが、質問 17「教員は

学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか」の評価がやや芳しくありませんでした。

- 配付資料やスライドの分かりやすさには留意して取り組んでおりますが、学生の捉えかたを見ると、まだ十分ではなかったと思われます。
- 授業内容の 1/3 を占める企業の財務分析が、就職活動において企業選択の面で役立ったという学生の意見がありました。学生が授業で学んだことを実践的に活用できたことが良かったと思います。
- 学生の授業に対する理解度がわかりました。一方で、学生の授業に対する不満点がわかり、今後の改善点に気が付きました。

2. 授業において工夫した点について

- 授業の準備をきちんと行うことや、授業をシラバス通りに厳密に行いました。また、興味を持たせるようにクリッカー等の機材の導入も行いました。
- 総合演習等の授業では、学生に対して毎週レポート提出を求めています、できる限り 1 週間以内にコメントを返却するよう心掛けました。
- 授業だけを行うのではなく、毎回演習問題を行うようにしました。
- 前期科目の授業においては、資格試験の対策科目であることから、資格取得の重要性について教授するとともに、前年度よりも過去問を詳細に分析し教えるように工夫しました。
- 後期科目の授業については、より多くの履修者に科目の趣旨や興味を持ってもらえるような授業内容にすべく、改善を行っていきたいと考えています。
- 実験や演習では、個人個人の理解力・レベルがかなり異なるため、一斉授業による方法はやめて、個人の進捗で進められるよう、授業資料に必要な知識や補足資料を加え、演習課題を与えて教員は質問対応に注力しました。
- 「データベース演習(3 年次・必修)」「医用画像処理(3 年次・選択)」ともに平成 26 年度にはじめて担当した科目でしたので、手探り状態でしたが、その週の大半の時間を授業準備に費やして、わかりやすい説明・資料を心がけました。
- どの科目でもリアクションペーパー(一言の感想やコメント程度)を書かせるようにしました。書かれた内容は匿名で次回の授業資料の冒頭に、コメントに対する感想を付けて掲載するなどして授業に参加している雰囲気を出そうとしました(雑誌の読者投稿のような形式)。授業評価の記述式のアンケートでもそのことに言及している学生が数名いたため、ある程度は成功したと思われます。
- 関連学会への参加、病院・関連企業への見学などにより、学習内容が企業や病院で実際に活用されている様子を学ぶことができました。
- 財務分析や品質管理についての演習により、実際の財務情報や品質管理に係わる情報を用いて分析を行い、その結果を企業や病院の担当者にプレゼンテーションする演習を実施しました。

- 協調学習仕組みを用いた参加型学習と学習管理システムを用いた予習と復習の実質化により、学生が前回授業の演習で学んだ内容を授業冒頭でプレゼンテーションすることで、復習を促しました。
- 一方的な授業ではなく、ノートにメモを取らせるとともに、その日の授業の学習目標を明確にし、学習効果を高める工夫をしました。
- 学生の成績は上位と下位の2極化の傾向にあります。そこで、学習レベルをやや上位に設定しています。そのため、ついてこれない学生には授業外で補講を実施するとともに、演習の時間を取り入れ、積極的に理解を深める工夫をいたしました。
- 診療情報管理士の受験科目のため、試験対策も同時に行いました。
- シムマン 3G（シミュレーションロボット）を導入したため、診察体験をしながら電子カルテへの記載をする演習を追加しました。この演習は試行的に導入したものですので、1コマしか確保できていません。診察体験には事前学修が必要ですので、今後は3コマ程度を確保できるよう検討したいと考えております。

3. 今後の授業にどう生かすか

- 授業への出席率が低いという問題があげられますが、これは3年次生が病院実習・企業実習で欠席していることが大きいことが原因です。欠席回の授業内容のフォローを行っていきたいと思います。また、授業内容が将来どのように役に立つのかを学生がイメージできるように工夫を行いたいです。
- 授業を数回終了した時点で、レポートのコメントそのものを授業で取り上げ、学生全員でレポートの書き方の共有を行います。
- 授業だけでなく毎回演習問題を行うようにします。
- 医療情報システム系企業から講師を招いて1コマ授業をお願いすることといたします。
- 授業評価の結果は真摯に受け止めた上で、改善が必要と考えられる部分についてはより早期に改善を行っていきます。
- 選択科目においては、学生が積極性を持って受講できるような内容を目指したいです。
- 課題量を授業時間内に終了できる量に調整したいと思っています。資料をそのままのぞるだけの演習では、考える力も付かず意味がないので、適切な難易度にするためには、課題のヒント量を増やすことで調整したいと考えています。
- 「教員は学生のレベルを把握して授業を行ったと思うか」の評価が芳しくなかったことを受け、今後は授業資料内で使う語彙をより易しいものにいたします。
- 就職活動での企業選択やインターンシップでのグループワークでも活用できる内容を加えていきます。当大学が医業経営管理能力検定指定校に認定されたため、資格試験の対策の一環として、より実践的な財務分析の

シミュレーションや企業・組織における経営の“質”向上に貢献する Total Quality Management (TQM) 演習を実施いたします。

- 授業の内容が難しいというコメントに対し、今年度は、ノートを積極的に活用し、復習をしっかりできるよう工夫しております。その成果もあり、今年度の中間テストの平均点は 70 点を超え、成果が確認できました。
- 独自に実施している授業アンケートでも高い満足度が得られているため、後期も引き続き継続したいと考えております。特に後期は、前期の内容を踏まえて展開されるため、随時復習や補講を実施したいと思います。
- 「授業内容をよく理解できたと思うか」の評価が低かったので、学生が興味を持てる事例等を紹介していきたいと考えています。また、資料の量が多いという指摘を受けましたので、最適な量になるよう工夫します。
- 本年度は難易度が平易すぎると感じる学生へのオプション的な課題を検討していきたいと考えております。

4. その他

- 授業評価を踏まえ一定の緊張感を持って授業ができることは良い制度であると思います。なお、授業評価結果においては適切なデータが取られているか、学生側の授業態度と評価の関係、科目ごとの成績の度数分布などが課題です。
- 学生の理解度を高める工夫として、プログラムの社会的価値、就職後の活用など将来のビジョンを高められるよう実践してまいります。